令和６年度第３回宝塚市パブリック・コメント審議会議事録

１　開催日　　令和６年１０月３１日（木）午前１０時００分～１１時３５分

２　開催場所　中央公民館２階　203・204会議室

３　出席者　　委員６名、事務局３名、傍聴人０名

４　議事　　　①令和５年度に実施したパブリック・コメント手続きの個別評価（案件No.５～７）について

　　　　　　　②パブリック・コメント手続の運用状況評価について

事務局　　　　　これより、令和６年度第３回宝塚市パブリック・コメント審議会を開催す

る。本日の出席者は委員８名中６名出席で過半数となり審議会は成立。これ

以降、会長に議事進行を願う。

会長　　　　　　傍聴者はいるか。

事務局　　　　　傍聴者はいない。

会長　　　　　　それでは議事に入る。前回の続きで、本日はNo.５～７について評価する。

まず、１つ目の案件であるNo.５「宝塚市立病院経営強化プラン（案）」に

ついて、各委員より評価をいただく。

委員　　　　　　このプランは、経営強化、医療、地域医療等の計画、医師の働き方改革と

　　　　　　　各計画との整合性を図る点で評価できる。市立病院は、建物の老朽化、人

口減少や子高齢化等の取り巻く環境が変化に直面している。様々な課題を

解決する必要がある。限られた財産を最大限活用する必要がある。経営の効

率化を図る必要がある。この計画は、特に専門的に作られている。評価は、

Ａとした。

委員　　　　　　市民の関心の高さどおり意見提出件数も多い。他市の市立病院と比べる

と、本市の市立病院には不安感がある。例えば療養型病院は殆どが市外に存

在する。そうした点では、本市は、医療後進市である。他市の市立病院は、

合併等で規模を大きくして生き残りをかけて存続している。概要版は、論理

的で整理されて作られている。市民からの意見で、カラー刷りとなっている

が、実際の意見募集時のものと審議会のものと異なるのか。

会長　　　　　　この点については、どうなのか。

事務局　　　　　現時点ではわからないので、担当課に確認をする。

会長　　　　　　市民相談課にもパブコメ一式は備え置かれているのか。

事務局　　　　　本課におかれているものは、全て白黒印刷のものである。万一、窓口で異

なっているのかもしれない。

会長　　　　　　備え置く窓口によって異なる資料を置くというのはいかがなものか。次

回までに確認を願う。

事務局　　　　　担当課に確認の上、次回審議会で報告することとする。

委員　　　　　　概要版の文字は、とても見やすかった。市広報誌の内容から市立病院の経

営は厳しい旨の記事があった。赤字経営が続く中、病院の建て替えは大変で

ある。

委員　　　　　　地域での高齢者が増えてきたことが、病院経営に影響したのか。文字が大

きく、読みやすく、わかりやすかった。

委員　　　　　　概要版の文字が小さく読みにくいと感じた。赤字収支がクローズアップ

されるからなのか。事業収支の情報は、概要版に記載する必要がないのでは。

詳しい内訳を書く必要はない。敢えて書くのであれば、計画本編で記載する

方がよいのでは。全体の流れとして市民に説明する情報として、概要版で説

明するには専門的すぎるのでは。

現状においてこのような問題がある、だからどうする、という点が明らか

　　　　　　　でない。箇条書きなので、何がどう繋がるのかが分かりづらい。募集要項の

内容が硬すぎるようである。

コメントについて、厳しいものが多い。それだけ市民の関心がある事項で

あることが分かる。また、内容は、専門性が高く、病院としては、回答しづ

らいことが分かる。しかし、丁寧に回答しているものとそうでないものとの

落差が大きく、そうしたものが散見される。例えば、コメントＮｏ.15など、

もう少し丁寧に説明して欲しい。

会長　　　　　　素人ではデータを読み取れない。経営状況を示すために色んなデータを

示しているが、普通の人は読み取れない。概要版に詳しいデータが必要なの

か。市民向けに分かりやすい、丁寧な言葉づかいで作成して欲しい。計画本

編に詳しいデータを記載して、詳細を知りたい市民には計画案本編に誘導

すればよかったのではないか。概要版として、市民が容易に理解できるよう

にする、という視点からいかがなものか。

　第４章についての意見が多く市民の関心の高さを感じた。それらの意見

に対して、「原案のとおりとします」の回答だが、計画に盛り込むことはで

きなかったのか。意見に対して回答することを言い訳するかのように市は

考えているように感じた。市民がこの計画案を読んで知りたいことが知り

えたのか。その方向で考えるという姿勢がないのが気になった。評価は、Ｃ

とした。概要版の作り方に工夫が欲しかった。

委員　　　　　　新病院のことについては、現時点では具体的に書けないのではないか。

会長　　　　　　特にＮｏ.26・27のあたりは、踏み込んだ回答が書けないのではないか。

　　　　　　　第４章で、その辺りのことを内容に盛り込めたのではないか。する、しな

　　　　　　　いのことは現時点では記載できないが、本文で書けないとしても注記で書

　　　　　　　くという対応ができなかったのか。総合評価の方に移る。Ａ評価でよろしい

か。委員全員了承。Ａ評価とする。

会長　　　　　　２つ目の案件であるNo.６「やさしいたからづか推進計画（第２期）（案）

～宝塚市自殺対策計画～」について、各委員より評価をいただく。

委員　　　　　　文章・文字に丸みがあり、柔らかく大変読みやすかった。情報量が多く、

ポイントが掴み辛かった。データも色々必要であるが、自らがそのような状

態になった時に、「どこに連絡をしたらいいの」などが分かりにくい。概要

版の情報量が多いのでは。

委員　　　　　　文字はとても見やすく感じた。キャッチコピーについて、少し分かりづら

いと感じた。何が言いたいのか、内容が掴みづらい。もう少し表現方法に工

夫が欲しい。

委員　　　　　　キャッチコピーと計画内容のギャップが大きい。内容的に非常に重い。ま

た、市民もコメントしにくい、と感じた。内容的にパブコメする必要性があ

ったのか。概要版について、文字は大きく読みやすいが、前半は分析、後半

に基本方針と対策の記載があるが、対応関係が不十分である。自殺予防対策

の内容が不十分では。一体何がしたいの、って感じる。計画内容が抽象的な

ものとなっている。支援の内容が抽象的である。窓口と相談をします、とい

うことを知らせたいだけなのか。

委員　　　　　　計画案ができるまで審議会などで相当な議論があったことは分かる。「自

死」を減らそうとする姿勢で作成されたものと感じる。様々な支援機関との

間で連携して作られたものであることは伺える。若者や女性等に対する自

殺予防支援が必要である。自殺には、様々な問題が複雑に絡み合っているの

で、関係機関の連携など総合的な支援が必要であり、課題でもある。評価は、

Ａ。

委員　　　　　　コメント数が少なかったが、比較的に丁寧に対応できている。概要版に意

見が集中している。概要版が少しわかりづらくなり、どういう問題に対して、

どのような施策があるか、という点が明らかでない。前回からどれだけのこ

とができたのか、が分からない。体系性が乏しい。単に事項を列挙している

ようになっている。自殺者数が減った増えたではなく、どれぐらいの者が支

援を利用したかなどを指標とすべきではないか。推移、原因の記載しかない

ので、目的・目標が見え辛くなっているのではないか。情報量が多い、目標・

目的が見え辛い、具体的な取組が分かりにくいものとなっているのではな

いか。

会長　　　　　　対策・施策が幅広く作られている。自殺者を減らすだけではなく、相談窓

口の利用などを通して何がしたいのか、伝わりにくくなっている、というこ

とか。

委員　　　　　　心のケア等がアプロ―チとして記されていない。行政として、全体的に計

　　　　　　　画としてのロジックが不明瞭なままで記されている。「重点」の意味が分か

らない。

会長　　　　　　計画を策定していったい何をしたいのかが分からないということか。

委員　　　　　　概要版は分かりにくい。本編を見ると、詳細な説明がなされている。例え

ば、相談窓口は列挙されているが、どこにどのような相談をすればいいのか

は記されていない。市民が混乱する資料となっている。

委員　　　　　　キャッチコピーと内容とがあっていない。相談窓口など分かりやすくす

る工夫が必要である。

会長　　　　　　キャッチコピーの意味は本編５頁に出てくる。計画本編を読まないとキ

ャッチコピーの主旨が分からない。概要版で計画の名称、キャッチコピーに

ついて説明する必要がある。

　概要版、計画本編共にモノクロであったのか。図表が分かりにくい、

少し工夫が必要である。概要版は単なる本編の要約ではない。課題がどこに

あるの

か、が分かるような概要版を作成すべきである。コメントＮｏ.1「若者への

支援」について、本編では抽象的な記載となっており、意見、回答、計画本

編との間のギャップが気になった。個人の評価としてＣとした。市民として

意見を出しにくい案件であった。また、内容が重いというよりは、内容の範

囲が広範囲であったのではないか。

委員　　　　　　具体的でないために、市民として意見を出しにくかったのか。２期目なの

で、1期計画でどれぐらいの成果があったのかということの提示がなかった

ことが原因ではないか。

会長　　　　　　評価は、Ａでよろしいか。全員委員了承。Ａとする。

　　　　　　　続いてNo.７「ＪＲ武田尾駅周辺地区バリアフリー基本構想（案）」につ

いて、各委員から意見を伺う。

委員　　　　　　意見提出人数が少ない。多くの人の通勤・通学者がいれば、もっと関心が

　　　　　　　高くなったのではないか。バリアフリー化の推進を図る必要があったの

ではないか。評価としては、Ａとした。

委員　　　　　　概要版はＡ3で見やすい（カラー印刷）。計画策定委員会の構成者名簿が

ついている。メンバーを見ると、障碍者向けのバリアフリー化なのか。この

方向で計画本編を見ると、そのような記載となっていない。なぜ武田尾駅周

辺なのか。一地区のことを全市民が意見をするというのは分かり辛いので

はないか。武田尾地区周辺住民にもっと周知すべきであったのではないか。

したがって、コメントしづらい案件となったのではないか。

委員　　　　　　計画を読んだときに武田尾駅は、段差等地形的課題があったのか。障碍者

には優しくない駅なのか、と感じた。そうした課題がある旨をもっと記載す

る必要があるのではないか。

委員　　　　　　武田尾駅を利用する障碍者数など記載がなかった。バリアフリー以外に

別の課題があるのではないか、と思った。カラー印刷は分かりやすかった。

委員　　　　　　今回の審議対象案件の中で、カラー印刷はやはり分かりやすかった。概要

版、計画本編については、分かりやすく書かれていて不足していることはな

かった。努力していると評価できた。要望に近い市民のコメントに対しては、

不誠実な市の回答はなかった。計画の構成は明瞭で、後はどれだけ分かりや

すく記載するか、がポイントである。

会長　　　　　　図表において、カラー印刷は読みやすく分かりやすい。キャッチコピーが、

誤解を招く可能性があるのではないか。地域のまちづくりの話と誤解され

ないか。「安全・安心」の言葉は、防災や防犯など多様な分野で広く使われ

ている。バリアフリーに繋がるキャッチコピーを考えて工夫して欲しかっ

た。主な乗降者は通勤・通学者なのか，それとも市外からの訪問者なのか。

事務局　　　　　参考として、武田尾駅は以前から地元からの要望もあり、施設上長い階段

があり、改良するのに多くの資金が必要であった。しかし、国等の制度が変

わり補助金が出ることとなり、ＪＲの負担なしで施工することとなった、と

聞いている。

会長　　　　　　誰のための、ということが読んでもわからなかった。西谷地区周辺の人の

ためのバリアフリ―化では、と感じた。

委員　　　　　　障碍のある方は、ハイキングしないのか。

会長　　　　　　障碍の程度等にもよるのではないか。　障碍者だけではなく、地域の高齢

者などの住民向けなのでは。

　バリアフリー化について、どうして武田尾駅なの、という説明をもっとし

っかりとするべきである。

委員　　　　　　ハイキングの場合には、殆ど武田尾駅を利用しないのではないか。観光振

興ではなく、地域住民のためのバリアフリーなのではないか。

会長　　　　　　評価として、Ａでよいか。委員全員了承。Ａ評価とする。

　　　　　　　　概要版の作り方は、今後の課題であろう。

会長　　　　　　「パブリック・コメント手続の運用状況」について、事務局から説明を願

う。

事務局　　　　　市の重要案件を審議する都市経営会議の議題を調査したところ、令和５

年度にパブリック・コメントを実施しなければならないにもかかわらず、実

施していなかった案件はありませんでした。

会長　　　　　　今後の予定として、前回・今回の評価結果を整理して答申案を作成したい

と思う。会長、副会長、事務局で答申案を作成して、次回までに取りまとめ

を行い、事前に見ていただけるよう委員に示す。次回で答申案を決定する。

では事務局から今後のスケジュールについて説明を願う。

事務局　　　　　答申は１２月２６日（木）午前１０時を予定している。開催通知は後日発

　　　　　　　送する。皆さんは、ご予定願う。

会長　　　　　　次回は、１１月２２日（金）に、この会議室で審議会を行う。以上をもっ

て本日の審議は終了する。